

みらいゼミ成果報告会

「日本の学校の窮屈さを分析する」

問題意識：一つの基準で評価される窮屈さ

本クォーターでの目標：課題に対して多角的に考えられるようになる

活動について

- ・週1各3時間、全8回
- ・対面とオンライン

取り扱った「窮屈さ」

- ・授業
- ・受験戦争
- ・テストや進学先による序列

？上記の「窮屈さ」がなぜ生まれているのか。

★必ずしも教室内で生まれるものではない。

[社会からの影響]

- ・雇用
- ・新自由主義
- ・上下関係
- ・同調圧力 等

>[なぜそういえるのか]

・雇用 → 企業にとって「いい大学」から学生を選ぶことで必然的に優秀な学生を雇うことができるため。

・新自由主義 → 教育をビジネスにすると、進学実績が広告になってしまうため等。

・上下関係 → 知識・知恵を権力と捉えた場合、教師は必然的に「上」であり、一方的に伝えるようになるため。

・同調圧力 → 「良さ」が強まっていくため。

新たな仮説

高校の授業を変えるには？

- ①生徒自身が変わっていく。
- ②大学のあり方が変わる。
- ③社会が変わる。

→②

ほとんどの高校の目標は大学だから

本クォーターで学べたこと

- ・問題に対する多角的な視点を得られたこと。教育の問題は教育学の話だけではない。
- ・他国では人権について子供のうちから学んでいることに驚き。

本クォーターでの気づき

- ・知識を深める機会がなかった
- ・テーマが広すぎた 等

今後の活動について

[テーマ]

大学の社会的役割について考える。

[活動内容]

自分たちで論文や図書を選び、事前に読み、それに基づいた議論を展開する。